
cluster amaryllis

狛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

cluster amaryllis

【コード】

N9058Z

【作者名】

狛

【あらすじ】

七月十五日。生まれてきてくれてありがとう。

生まれてきてくれて、ありがとう。

この橙色の髪を持った愛し子に、精一杯の愛と神の御加護を

cluster amaryllis

何時間にも及ぶ激痛の中、真っ白な病室で産声が上がった。

生まれた……生まれたよ、真咲。

そう言って、一心は泣きながら私に愛し子を見せる。

綺麗な、綺麗な橙色。

初めての出産に酷く疲れてはいましたが、そんな疲れも忘れるほど、
たった今生まれてきたこの子が愛おしくて。

大きな声で泣き、初めて呼吸をし。

嗚呼、なんて愛おしいのでしょうか。

生まれてきてくれた。
私達のもとに、宿ってくれた。

小さな身体で息を吸って、精一杯の声を張り上げる愛しい子。

そう、思い切り息を吸いなさい。此処に、この世にあなたは生まれ
てきたの。私達のもとに生まれてきたの。

息を吸って、精一杯生きなさい。その小さな手で掴んだ幸せを、決
して離しては駄目よ。

「真咲……真咲……この子の名前を決めよう」

「ええ……実はもう考えてあるの」

“一護”

「一つを護ると書いて一護」

どんなものにも負けない、その手で護る強い子に。

「一護か……良い名だ。きっと俺に似てイケメンになるぞ」

「ふふ、そう言うと思った」

一護……一護……

生まれてきてくれてありがとう。

何があっても、あなたのことは私が護るから。お母さんが護るからね。

真咲と一護が帰ってきて一週間が経った。

小さな揺り籠の中で、小さな命とパチリと目が合う。

髪の色と伴って、瞳は甘い、琥珀の色をしていた。

「一護……」

小さな身体で、生まれながらに強い霊圧。

嗚呼、この子はこの先、どれほど苦勞するのだろうかと自責の念に

駆られる。

俺のせいで、この子は異形から狙われる。俺のせいで

「一心」

真咲の柔らかい声に、はっと我に返る。

「真咲、俺は……」

「一心、自分を責めないで。何があっても、私達でこの子を護るの。だから、この子の前でそんな顔をしては駄目」

ふと、真咲が抱き上げた子を見れば、一護は小さく啜り泣いていた。

感情に敏感なのかもしれない。

「ごめんな、一護……何があっても父ちゃんが護るからな」

だから、泣くな。

小さい頭を恐る恐る撫でると、小さな愛し子はふんわりと笑った。

一護が生まれて二ヶ月。今のところ私と一心が心配している事は起こっていない。

このまま、何も起こらない日が続いて欲しい。

「真咲、一護と一緒に散歩しないか」

「……そうね。行きましようか」

一護を腕に抱いて、河原まで足を運ぶ。

秋に入って少し涼しくなった風が気持ちいい。

河原には、目が醒めるような赤い曼珠沙華が一面に咲いていた。

「綺麗……」

「だろう？ 知り合いが教えてくれたんだ」

その嬉しそうな顔から、散歩だなんて言っておいてこれを見せたかったのね、と笑ってしまった。

曼珠沙華……彼岸花。

それを一輪摘み取って一護に見せると、一護は不思議そうにじっと見ていた。

「一護、

」

きつと、大きくなったら忘れているでしょうね。

だけど、あなたに贈るこの言葉は何年経とうとも決して変わらない。

毎年のように咲く曼珠沙華。

おふくろが死んでから、毎年一人でこの一面の赤を見に来る。

彼岸花なんて、死人花ともいう毒の花。それをおふくろは好きだと
言っていた。

一輪、摘み取って空に翳す。浅葱色と相反する紅は鮮やかで、天上
に咲くという“曼珠沙華”という名も、あながち間違っていないな
と思ったり。

それでも、おふくろがいなくなった今は物悲しい。

『あなた一人を、想っています』

遠い、昔の記憶。いつだったかは覚えていない。ただ、その言葉だ
けが、いつも俺の中にあった。

今なら分かる、曼珠沙華の花言葉。

でも、もうおふくろはいない。

俺は花を、一面の赤の中に投げ入れた。

俺にとって、此処はもう悲しい思い出しかないから。

「またな、おふくろ」

来年もまた来るよ。

愛しています。

橙色の髪を持つこの愛し子に変わらぬ愛を。

cluster amaryllis

END

(後書き)

突発的に書きたくなくなったので書いてみました。今更ながら、一護の誕生日に投稿しても良かったなと思いつつ。

彼岸花の花言葉は『想うのはあなた一人』。
そして『悲しい思い出』。

ちなみに母の花言葉は『幸福な家庭』(^^)
これも出したかったけど、ただのギャグになりそうなのでやめました。しんみりした感じのが書きたかったのです。

真咲さんの、一護への愛情が伝われば幸いです。

では、ここまで読んでくださりありがとうございます(^^人^^)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9058z/>

cluster amaryllis

2011年12月28日14時52分発行